

Newsletter



附属学校ニュースレター

第17号・2013年 春

就任のご挨拶

この4月に理事（教育学生担当）副学長を拝命し同時に附属学校部長を兼務することとなりました。附属幼稚園・附属小学校合同の入園・入学式、附属中等教育学校の入学式に参列しました。それぞれ新園児（学校教育法では幼児）、新児童、新生徒が緊張している様子が手にとるようにわかり、大切なお子様をお預かりしているという実感がわき、気持ちを新たにしましたところです。もっとも新校園長はそれ以上に緊張していましたが、私はちょうど50年前に小学校に入学したのですが、入学式の記憶はほとんどありません。ですが相当に緊張していたことでしょう。いま思うと子供のときにしかできない貴重な体験といえます。

奈良女子大学、各附属学校園ともここ数年の間に相次いで創立百周年を迎えました。教育系の学部を持たず且つ幼稚園からドクターコースまで擁する唯一の国立大学として、各附属学校園は目覚ましい成果をあげてきました。このニュースレターの読者の方が詳しいかと思いますが、スーパーサイエンスハイスクール等の成果の詳細についてはここでは省略させていただきます。これからも発展するよう大学として全面的にバックアップしていく所存です。

平成16年それまでの文学部附属から大学全体の附属となり附属学校部が設置されました。以来奈良女子大学として、附属学校部を文学部、理学部、生活環境学部という3学部に加えて第4の「部」と位置づけ強化してきました。内々の話ですが、野口前学長が私に「附属学校園から要求があったときはこれまでの支援のリストを添付するように言った方がよいよ。それだけサポートしてきたから」と助言するほど力を入れてきました。今回、今岡新学長が就任することとなりました

が、この方向は変わりません。

とはいえ、まだまだ至らないところもあると思います。また文字通り子供を対象にしていますのでいろいろ想定外のこともあると思います。先日学園前駅構内を自ら奔走する日和佐附属小学校副校長



とばったり会いました。大事には至らなかったようですが、こういつてはなんですが30年以上大学生だけを相手にしていた私には新鮮ですらあり、大学とは異なる配慮が必要なのだと理解しました。

附属学校部長としての私自身の初仕事は雨漏り修繕でした。先日附属の職員組合との交渉で附属幼稚園の雨漏りが出てきて聞いてみるとかなり以前からあったようです。その場で修繕を即決しましたが、これなど改善されたとはいえまだまだ附属との情報共有の難しさを実感する出来事となりました。何事にもこのようなスピード感を持って、対応していくつもりです。

附属学校園は、百年の伝統に裏打ちされながら、これまでさまざまな特色ある教育・研究をおこなってまいりました。今後もなお一層国立大学法人に設置されている附属学校園であることの社会的責任を十分に自覚して、その発展に力を尽くしたいと考えています。

今後とも、奈良女子大学とその附属学校部の活動にたいしましてご理解とご支援を賜りますよう、お願い申しあげて私の挨拶とさせていただきます。

就任のご挨拶

附属幼稚園長 松澤淳一



この度、附属幼稚園長に就任致しました。これまで学校教育の最終段階である大学でしか仕事をしてこなかった私ですが、その入口である幼児教育の現場を見る得難い機会を与えられたものと思っております。

さて就任後、ほどなく附属幼稚園を訪れました。広い園庭、子供の遊び心をくすぐる豊富な遊具、飼育小屋、音楽の部屋、絵本の部屋などなど、その素晴らしい環境を見て、思わずこの園庭で遊ぶ、幼児に戻った自分の姿を想像し、しばし幸せな気分にとらわれてしまいました。

私の専門は数学です。数学も、この園にある遊具のように、子供たちの中に自然に溶け込めたらどんなに良いだろうかと想像をしてみたくくなります。そこで先日、園児に数についての質問をしました。すると皆が一斉に手をあげて答えようとします。その勢いは予想外でしたし、考えようとする真剣な眼差しには感動を覚えました。こうした子供達の好奇心と積極性を肌で感じ、未来に希望を持つと同時に、将来に渡ってこのエネルギーが持続することを切に願いました。

幼稚園では、さまざまな行事において、保護者の方々と接する機会が多くあるようです。自分の子供時代、子育て時代、そして、大学でのこれまでの教育経験等を重ね合わせながら、子供、保護者、そして先生方と一緒に過ごす時間を大切にしたいと考えております。

昨年度100周年という区切りを迎えた幼稚園のスタッフの方々には、今年度が新たな一年目のスタートであるという心地よい緊張感があるように感じられます。私もその一員として、生涯に渡る人格形成の基礎を培う幼稚園教育に微力ながらお役に立てるよう努力致しますので、よろしくお願い申し上げます。

就任のご挨拶

附属中等教育学校長 高田将志



思いもかけず、この4月から附属中等教育学校長を務めさせていただくことになりました。本校の新入生も同じかと思いますが、期待(?)と不安で一杯の年度初めを迎えております。

さて、私は、大学に職を得てからこれまで、入試以外の場で中学・高校の教育に濃密に触れる機会はほとんどありませんでした。そういう離れたところから一転、教育実践の現場に寄りそう仕事をするようになったことで、外から眺めていたのではわからない、新しい世界を垣間見ることができるようかも知れない。大袈裟かも知れませんが、現場主義を標榜する地理学を研究する大学人としては、ほんの少しですが、そのような期待を抱いております。

ところで、自らの中学・高校時代を振り返ってみると、この間の勉強やスポーツ、人との出会いが、その後の自分の人生に大きな影響を与えていることに、今更ながら驚きます。おそらく本学の附属中等教育学校も、生徒達の人生に、多くの影響やきっかけを与える場となってきたことでしょう。このような自覚を持ちながら、学校運営の一翼を担えればと考えております。

当然のことながら、長年現場におられる教職員の方々に比べると、私は頼りない新人以下の存在かも知れません。しかし、よそ者の新鮮な目で、何か少しでも附属中等教育学校に貢献できることが無いのか、それをみつけることが私の一つの仕事かな、とも思います。加えて、現場教職員の方々が個々にお持ちの力を、最大限、発揮していただけるような環境づくりにも貢献できればと考えております。皆様には、おらかな目で見守っていただければ幸いです。よろしくお願い申し上げます。

絵本の部屋リニューアル

附属幼稚園

附属幼稚園は、昨年の11月に創立百周年を迎えました。創立百周年記念事業として、保育室のエアコンの設置や「なかよしの木」の設置、園歌「だいすきようちえん」のCD作成などを行いました。また、絵本の部屋のカーペットと壁紙の張替を行い、30年以上あった古い書架を新しい白い書架に取り替えました。

絵本の部屋は子どもにとって望ましい読書環境を整えた部屋として1974年に開設されました。絵本や童話を通して世界の優れた物語文化に接する機会を作り、幼児に夢とやすらぎを与え、豊かな情感をもつ子どもに育てることを目的としています。

絵本の部屋には現在3,500冊の絵本や童話があります。絵本の管理と同時に、子ども自らの選択の目安になるように、物語絵本（現代創作絵本【黄緑】、日本の神話・昔話・民話【緑】、外国の古典名作童話・民話【黄】、単純絵本【白】）、科学絵本（自然科学絵本・図鑑【青】、社会科学絵本【橙】）、その他の絵本（造形・ことば遊び、折り紙・あやとりなどの遊びの本など）に分類し、色別に並べています。

また、行事や子どもの活動に合わせたコーナーも作っています。遠足で水族館に行くので海の生き物の図鑑や絵本を、健康診断の時期なので体や病気に関する絵本を、栽培活動をしているので野菜・花の図鑑や絵本を、というようにコーナーを作り、興味をもった子どもがすぐに見たり調べたりできるようにしています。

真新しい絵本の部屋で、教師に絵本や紙芝居を読んでもらったり、友達と一緒に見たりして、イメージを膨らませてお話の世界を存分に味わっています。



春のなかよし運動会

附属小学校

4月27日（土）、附属小学校では、晴天のもと、春の運動会を行いました。子どもたちが、自ら工夫し協力して、自分たちでつくる運動会なので、運動場には教師の姿はなく、生き生きとした子どもたちの姿が見られました。

春の運動会では、新1年生を全校生があたたかく迎える歓迎の意味があります。また、秋の大運動会では6年生がリーダーシップをとって5年生と協力して係の仕事を進めますが、そのための練習として春の運動会では6年生だけで係の仕事を体験することに意味があります。

6年生の子どもたちは、全員がいくつかの係に分かれて、事前に2回打ち合わせ会を行います。前年度の反省を踏まえ、新しいアイデアを出し合い、準備を整えていきます。

例えば、進行係は、演技の紹介や方法等を事前に学年の担任の先生にインタビューに行き、原稿を作ります。子どもたち同士で聞き合い、校正をしてから、副校長の前でアナウンスしてみます。副校長は、子どもたち一人ひとりの話し方について指導しました。原稿用紙を少し上にして、のどが詰まらないこと、慌てないで一年生が聞き取れるようにゆっくり目に話すこと、発音がよくなるように口のあけ方に気をつけてよく練習をしておくこと、など。

それぞれの係の努力と工夫を持ち寄って、運動会は幕を開けました。

各学年の演技は、子どもらしい楽しい内容で構成されます。題名は、3年生「ならリンピック2013春」、4年生「心を合わせて三人四脚リレー」、2年生「とんとんとんではしってまわる」、5年生「くぐってとんてん円コースリレー」、6年生「ハードルリレー」、そして、1年生は6年生と一緒に「みんなげんきにだいぼうけん」でした。

このようにして、附小のなかよしの伝統が受け継がれていくのです。





学びのよい環境を作りたい

附属小学校 日和佐尚

本年度より附属小学校の副校長を務めることになりました。よろしくお願いします。

4月8日、始業式に集まった子どもたちは、新しい学年への希望に満ちた顔ばかりでした。「学習歌・奈良の子ども」が体育館に響き渡り、子どもたちの意欲を感じました。なかよし委員会委員長の話も堂々として立派でした。下学年にも分かりやすく「一年間のめあて」を話してくれました。まさに「伸びて行く」勢いを感じました。

私は、副校長としてこの子どもたちに何ができるのだろうかと考えながら、式に参加していました。心の中から、「この子どもたちを守るんだ。子どもたちの命を預かっているんだ。そして、自ら伸びて行く子どもたちをよい環境の中で育てなければならぬんだ。」という思いが沸き起こり、その決意を固めていました。

そのためにも教職員の健康に気を配らなければなりません。そして、よい環境を整え、思いっきり仕事に励んでもらえるようにしたいと思います。また、保護者と一緒に、子どもを学校と家庭の真ん中に据えて教育できる環境も作っていききたいと思います。



主幹教諭1年目

附属小学校 谷岡義高

これまで、堺市科学教育研究所で4年間、公立小学校1校目で5・5・6・4・5・6年の担任、2校目で6・5・6・1・2・5年の担任をしました。そして、附属小学校では、理・4・5・6・情報・1・2・3・4・5・6・2・理・理・理・理・1・理・3・主幹(本年度)と、今日までの教師としての歩みを振り返ることができます。その時々子どもたちと取り組んだ学習、劇、運動会の演技、遠足、合宿など、多くのことが思い出されます。

先輩の先生を見習って、学級便り、学年便り、理科便りなどを最初の頃から書き続けてきたので、家の本立てには、全ての学年のお便りが残っています。読み返してみると、冒険的な学習、新たな取り組みの遠足・合宿など、若い頃から危なっかしい取り組みをいろいろ試みてきたことが思い出されます。しかし、今思えば、それらの企画を温かく見守り支えてくださった、学年主任や管理職の先生方の陰ながらの支援をしみじみと感じます。

今年から、若い先生方の取り組みを応援する立場になったことを、自分に言い聞かせています。書類を作ったり、会議の準備をしたり、危険個所の点検をしたり、掃除をしたりと、無事に教師生活を送ることができた恩返しとして頑張ります。



奈良女附属1年目

附属中等教育学校 多賀秀紀

着任から2ヶ月が過ぎ、ようやく慣れたと言いたいところですが、新たな発見がある毎日です。

生まれは、古事記編纂1300年の節目であった昨年、関連した多くのイベントで活気づいている神話のふるさと・島根県です。そして、学生時代を大阪府で過ごし、大学院で学ぶために再び地元へ戻りました。昨年度は、採用された千葉県公立中学校へ勤務していたことから、住む地を転々としていましたが、本年度、附属中等教育学校へ参りました。久々に関西へ戻ってきた安堵感とともに、古事記がもたらしてくれた不思議な縁を感じているところです。

担当教科は音楽です。様々なジャンルの音楽に触れることができる現代にあって、学校における音楽科の目的は、生徒の感性を高め、情操を養うことにあります。多方面で説明責任が求められる現代社会では、分かりやすさや率直さが追求されすぎているように思えてなりません。これらはもちろん必要です。しかし、人間のもつ感性や情操とは、事象の表面的なものではなく、その根底にある人間に共通した感覚をとらえるために必要不可欠なものだと、私は思っています。

生徒たちが豊かに生きることができ、社会をつくるために、微力を尽くしたいと思っています。